

株式会社文星閣

世界初のUV6色両面機・リスロンGX40RPで どんなニーズにも応える企業力づくりに邁進。



取締役社長
中嶋 幸保 氏

「印刷に徹し、印刷の王道を極める。H-UV搭載リスロンGX40RPは、その主力機になると考えています」

日本における水なしオフセット印刷市場をリードしてきた株式会社文星閣は、2002年よりUV印刷を開始。2009年、H-UV搭載リスロンS40（菊全判6色オフセット印刷機）の導入からUV展開を本格化。以降、「水なし」と「UV」の2軸で受注を拡大してきた。2019年3月には新本社工場を竣工、4月に6色両面印刷機であるH-UV搭載リスロンGX40RP（菊全判6色両面オフセット枚葉印刷機）を導入し、生産体制をさらに強化させた。その背景と効果について、中嶋幸保社長、佐野勝美取締役工場長、瀬高次郎執行役員副工場長、広瀬博征印刷部係長にお聞きした。

他社が追従できない UV6色両面という競争力

「京都議定書（1997年）以降、環境に配慮した印刷へのニーズが高まり、水なし印刷の技術を追求めてきた当社では追い風になりました。現在は、多くの企業がCSR報告書や会社の看板となるパンフレット、株主総会の案内状などの印刷に、水なしを指定されます。そう中嶋社長が語る株式会社文星閣は、70周年を迎え、同業に頼られる会社へと成長。現在は、同業からの受注は、全案件の約8割を占める。」

「同業の仕事を進捗するには、品質と納期が絶対。生産性を上げてよいものを刷ることが工場の命題になっていきました。そこで、UVや両面機を取り入れることに。特にUVの速乾性は、短納期対応にはもってこいで、過去には「4（フォー）アワーズ」というフレーズをつくり、下版されてから両面を刷って断裁するまで、4時間ということをつたい文句に営業しました。」

同業の仕事をする印刷会社は、経営が厳しい状況に陥りやすいともいわれている。そんな中、勝ち残ってきた秘訣を、中嶋社長は次のように話す。

「印刷に特化すると決めた後、積極的に態勢を整えてきました。近年では、2013年にH-UV搭載リスロンGX40RP（菊全判5色両面オフセット枚葉印刷機）、2016年に水なし対応のリスロンG40（菊全判5色両面オフセット枚葉印刷機）を2台入れていきます。大手であっても一つの工場、水なし、UV、厚紙、薄紙、特殊原反を手掛けているところは他にはないと思っています。枚葉ならどんな仕事も対応できるということが、当社の大きな価値であり、その価値をさらに高めるために、今回、H-UV搭載リスロン

GX40RP（菊全判6色両面オフセット枚葉印刷機）の導入を決断しました」

UV6色両面の印刷機は、世界初。両面印刷での「高品質化・短縮化・高速化・安定化・低減化」を徹底追求した同機が誇る圧倒的な生産力は、これまで不可能だった仕事を可能にしている。

「6色UV（両面）をワンパスで刷れ、例えば36万通しの6/6の仕事であっても、短期で納めることができます。夜に下版して20万通して翌日中にほしいといった注文であっても、両面機2台で対応できるといった、当社にしかで

きない仕事の領域の幅が増えました」

同社では、今回のH-UV搭載リスロンGX40RPの導入によって、お客様の強力なパートナーとなると同時に、これまで工場が抱えていた課題も解消している。

**版数が増えるほど
時間が短縮できる**

4月の起動手から約半年。今はロットや納期、さまざまな用紙を試すなど、性能を最大限に生かす方法を模索している。そんな中、瀬高副工場長の目には、効果や方向性が見え始めている。

「これまでH-UVの両面機は1台しかなく、仕事が続いていたため、メンテナンスのために機械を止めるタイミングが取れませんでした。しかし、2台になったことで、保守のためのメンテナンスに充てられる時間が増えました。その結果、今後はさらに品質を安定させていきます。また、H-UV搭載リスロンGX40RPには、全色同時刷版交換装置（A-APC）をオプションで付けています。版交換が断然早く、小ロット仕事においては、その差は歴然。版数が増えるほど時間が短縮できるので、生産効率に大きく貢献しています」

長できていると感じます」と話す。

**生産性最大化に向け
今後もサポートに期待**

文星閣の印刷機は、現在、8台69胴全てKOMORI機を採用している。中嶋社長には、機械の選定において、徹底した持論がある。それは「どのような機械を入れるかは、経営方針などを考えるトップが決めるべき。しかし、どのメーカーのどの機種を入れるかは、現場の責任者に委ねるべき」というもの。

「品質・価格・サービスの3点を軸に総合で判断していたら、結果的に全てKOMORI機になりました。特に、サービスは選定の決め手。サービス部隊単体のことを指すのではなく、印刷会社に対するトータルでのサービスのことで。つまり、どれだけこちらを向いてサービスをしてくれているか。KOMORIとは、キャッチボールができるような関係性を築くことができている、それが世界初のUV6色両面の印刷機の実現につながったのだと思います」

H-UV搭載リスロンGX40RPを中心に据えた新工場全体の生産性最大化に向け、KOMORIとのキャッチボールは続いている。



印刷部係長
広瀬 博征 氏
「PQA-Sで汚れを検出でき、損紙をかなり少なくできます。両面機は初めてですが、短時間で慣れることができました」



執行役員副工場長
瀬高 次郎 氏
「H-UV搭載リスロンGX40RPは、オールマイティーに使える機械。最も優秀なオペレーターを担当しています」



取締役工場長
佐野 勝美 氏
「6色の仕事が効率よくなっています。UVは特に金銀が難しいが、当社では経験を生かし、うまく刷ることができています」

さらに、機長を務める広瀬係長は「胴が多いため、気を配るべき点もありませんが、自動化で生産効率が高く、何を刷ってもメリットになる印象。また、検査装置PQA-SやPDC-SXのおかげで、スタートを早くできています。この機械を担当し、モチベーションも高まり、成

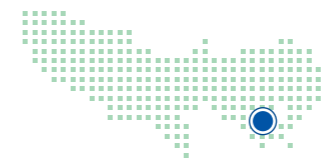
「新工場も順調に推移しており、1日でこなせる量は、すでに目に見えて増えています。対応できる仕事の幅も広がっています。将来をしっかりと見据え印刷を極めていきたい。それが当社にとって大事なことだと信じている」と中嶋社長は語った。



右：9月に110名を超える取引先を招待して開催した、新工場での内覧会。セミナー、実演、実機見学、工場見学に、お客様は大きな関心を寄せられた。

左：H-UV搭載リスロンGX40RPを入れた新本社工場は、生産を格段と向上させた。「隣の機械の状況がよく見え、別の機械でサポートしたりするなど、仕事の組み換えも判断しやすくなりました」（瀬高副工場長）

TOKYO



本社 / 東京都大田区昭和島1-5-32
http://www.bunseikaku.co.jp/
TEL / 03-3763-8370

